様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：３２６８６
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2014～2017
課題番号：２６５８００４１

研究課題名（和文）「イタリア式コメディ」という新しい映画史

研究課題名（英文）History of the cinema "Commedia all'italiana", Italian Comedy Style

研究代表者
佐藤　歩（SATO, Ayumi）

立教大学・心理芸術人文学研究所・特定課題研究員

研究者番号：１０６４８９１８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：研究成果として、20世紀の映画史において未開の研究領域であるイタリア映画ジャンル「イタリア式コメディ」の全容を歴史的・芸術作品として存在と重要性を明確にすることができた。イタリア映画監督の多くの巨匠たちが持つコメディ映画の経歴を明らかにし、日本では無名であるが世界では名高いコメディ映画監督の発見をすることができた。イタリア式コメディの功績と継承を探る研究活動として新たな映画史を提供するさきがけとして調査・集積・整理した文献と動画情報を、最新のインターネットシステムを活用しデータベースを作成、配信を公開し、イタリア式コメディの知識と存在を広く社会に発表し、新たな映画の討議の場を築く予定である。

研究成果の概要（英文）：As a result of our research, we were able to clarify the existence and importance of the Italian cinema genre "Italian comedy Style" = "Commedia all'italiana"," which is an unexplored research for the movie history of the 20th century movie in Japan. I could reveal the career of a lot of Italian director's great masters as "Commedia all'italiana" and was able to discover a famous comedy movie director unknown in Japan but famous in the world. Offering a new movie history as a research activity to explore the achievements and succession of "Commedia all' italiana", publish databases and distribution of literature and movie information surveyed, utilizing the latest internet system, open to the public in the world. We will announce the knowledge and existence of "Commedia all'italiana" to society widely and plan to build a new movie discussion place.

研究分野：芸術

キーワード：映画史　イタリア式コメディ　笑い　ディーノ・リージ　Italian comedy Style　Commedia all'italiana

１．研究開始当初の背景

イタリアは映画大国であり、この国における国内外の映画研究は盛んである。特に 20 世紀映画史上イタリア映画として 1940 年代「ネオリアリスモ」と呼ばれる現実主義的映画の研究が多くなされ、その価値と意義を高く評価されている。しかし、イタリア映画史上全ジャンルと常に共存し、別のジャンルを生み出す原動力の役割も担っていた「イタリア式コメディ」の存在と価値、この“ジャンル”の映画におけるアート＝技である「笑い」の知的意義についての全貌は未だ映画史上明らかにされていない。研究代表者はフランスや世界各地で頻繁にイタリア式コメディ作品の上映に立ち合い、日本では無名のコメディ映画監督の旗手の作品を鑑賞し発見する機会に恵まれてきた。21 世紀に入りイタリア式コメディの上映の機会は著しく増え、例えば 2004 年 NY 国際映画祭、2006 年東京国際映画祭等でマリオ・モニチェリ監督作品『いつもの見知らぬ男たち』(1958 年)が初上映されようやく研究対象として視野に入れることができると判断し、こうした動向を鑑みて研究代表者は既に 2008 年から研究に着手、映画監督・俳優別フィルモグラフィの作成を続けていて、フランスで築いた人脈—イタリア式コメディに注目し積極的に取り上げてきた映画関係者、映画批評家や映画学者と定期的に情報交換を行い、資料文献集積を続けていた。以上の経緯と研究対象への重要性から、本研究に実践的かつ総括することに着手した。

２．研究の目的

研究の目的は、20 世紀の映画史において未開の研究領域であるイタリア映画の主要ジャンル「イタリア式コメディ」の全容を歴史的・芸術作品として存在と重要性を明確にすることである。多くのイタリア映画監督の巨匠たちが持つ隠れたコメディ映画の経歴を明らかにし、日本では無名であるがしかし世界では名高いコメディ映画監督の発見を促し、その紹介を行う。本研究はイタリア式コメディの功績と継承を探る先駆けの研究活動であり、映画史に新たな史実を書き加えるものを目指した。こうした調査・集積・整理した文献と動画情報を、最新のインターネットシステムを活用しデータベースを作成、配信を行い公開することにより、イタリア式コメディの知識と存在を国境を越え広く社会に発表するべく、新たな映画の討議の場を築くことを目指した。

３．研究の方法

本研究計画は、三段階の研究手順を踏む。

（１）文献・映像資料調査を行う。

イタリア式コメディ映画作品、歴史的物理的に存在した作品について、国内外のアーカイヴで資料集積を行う。本研究ではイタリア式コメディで創作されたお笑い映画を分析するが、各作品がいかにして映画において「笑い」が創作されてきたか、そのアート＝技を探る。映画監督の着想、脚本家のシナリオ制作作業、監督の演出、俳優の演技を分析する。作家主義の見地から、映画監督も重要視するが、イタリア式コメディにおいて最も重要であり、基軸を担っているのは「俳優陣」である。男優としては、喜劇王トト、俳優兼監督ヴィットーリオ・デ・シーカ、アルド・ファブリッツィ、ヴィットーリオ・ガスマン、ウーゴ・トニャッツィ、アルベルト・ソルディ、マルチェロ・マストロヤンニ、ニーノ・マンフレッディ、ジャンカルロ・ジャンニーニ、パオロ・ヴィラッジョ、ルイジ・プロリエッティまで、女優はソフィア・ローレン、モニカ・ヴィッティ、ステファニア・サンドレッリ、アゴスティーナ・ベッリ、オルネラ・ムーティ、マリアンジェラ・メラート、ラウラ・アントネッリ等に注目した。映画監督としては、マリオ・モニチェッリ、ディーノ・リージを主要に調査し、ルイジ・ザンパ、ピエトロ・ジェルミ、ルイジ・コメンチーニ、エットーレ・スコラ、リーナ・ヴェルトミューラー、（その他、ピエル・パオロ・パゾリーニ、フェデリコ・フェリーニ、アルベルト・ラットゥアーダ、ステーノも取り上げている。）以上の表記人物の他に、主に脚本家たちの、既に数十フィルモグラフィを作成して、現代デジタル機能を駆使してそれらを相互関係で結び付けている。俳優や監督の他にもイタリア式コメディに関わった層は幅広い。現代に至るまでコメディが形を変えながらも存続してきたのは、映画職人の徹底した専門性の高さと分業作業と、これらを結集する力の結晶で脚本家のシナリオ創作にも照準を合わせ、脚本家の活動・フィルモグラフィー（映画関連文献）にも注目した。

（２）データベースを作成を行う。

（１）の文献映像調査で得ることができた俳優・映画監督・脚本家たちのフィルモグラフィー（映画関連文献）に加え、映画関係者・批評家へのインタビューを行い動画映像資料としてデータベースと共に保管する。

（３）シンポジウムを開催、新しい映画史として発表する。

これらの成果をもとにイタリア式コメディ映画についてシンポジウムを開催、20 世紀映画史における重要性と 21 世紀における可能性を探る。

研究の進行状況として、研究初年度平成 26 年度は主に第一段階「イタリア式コメディ」の映像資料と文献資料収集に着手した。イタリアとフランスの映画研究者と国立映画資料

アーカイヴの調査機関から調査協力の了解を得た。日本国内でイタリア式コメディの文献・映像資料調査を行い、作品の公開年月日等史実や資料集積を行った。同時に研究の第二段階であるデータベース作成への環境整備を行った。7 月渡仏、フランス・シネマテーク・フランセーズ併設映画図書館 BIFI での文献調査、特にディーノ・リージ監督資料や、ヴィットーリオ・デ・シーカ監督のシナリオ作家チェザーレ・ザパッティーニの資料を集積した。映画批評家ジャン・ナルボ二氏、ジャン・ジッリ氏、シネマテーク・フランセーズ・プログラムディレクタージャン＝フランソワ・ロジェ氏へのインタビューを行い、動画映像資料としてデータベースへ共に保管を行った。

平成 27 年度も引続きイタリア・フランス・日本の三カ国で、「イタリア式コメディ」映画史上の文献映像資料の調査を行って、データベースへ資料や情報を集積した。2015 年 4 月からの主な調査先は、東京近代美術館フィルムセンター図書資料室、在日イタリア文化会館図書資料室にて、またフランスの BIFI（国立映画図書館）のネット資料を主に調査を行った。5 月にはイタリア文化会館と朝日新聞社主催「イタリア映画祭 2015」に参加、この映画祭に来日したイタリアのコメディ映画監督 2 名俳優 2 名（リッカルド・ミラーニ監督、ジョリオ・マンフレドニア監督、パオラ・コルテッレージ、アレッサンドロ・スペルドゥーティ）へインタビューを行い、撮影内容を動画資料として日本語字幕を付記、制作しデータベースへ加えた。2016 年 2 月下旬にフランスにて海外映像資料と文献調査を行った。インタビューアー撮影は研究協力者であるシネマテーク・フランセーズの協力者ジャン＝フランソワ・ロジェ、映画学者セルジオ・トフェッティ、批評家ジャン・ジッリ、ジャン・ナルボニの撮影を行い、同時に研究最終年度に予定している国際シンポジウムと上映会の打ち合わせも行った。またフランス・シネマテーク・フランセーズの映画特集「イタリア映画監督ルイジ・ザンパ特集」に参加し貴重な監督作品を約 25 本鑑賞、この資料に関しても BIFI(国立映画図書館)で映像文献調査を行い、データベースへ集積を行った。帰国後、研究協力者トフェッティ氏、ナルボニ氏といった映画学者や研究者と定期的に国際電話、通信交流、情報意見交換を行い、助言を受けた。

平成 28 年度はイタリア式コメディの文献調査を行った。イタリア式コメディ映画についての実態調査や研究は、イタリア本国・シネチッタの調査のみならず各地のフィルムライブラリー（トリノ）の協力、映画史・映画学等映画研究や批評家セルジオ・トフェッティ氏の協力により、イタリアの文化について助言を得ることができた。実はもともと中世から隆々とイタリアに存在していた演劇、即興喜劇「コメディア・デラッルテ」の伝統と技、イデオロギーに大きく依存し、多大な影響を受けたことが判明した。このことから即興喜劇についても調査を国内外で行なった。在日イタリア文化会館図書室や、フランス・イタリアでの文献映像資料調査を行った。また主にフランスでの映画人・監督・俳優に関する文献・映像が多く出版・刊行されており、文献と映像資料を集積した。

最終年度平成 29 年度はシネマテーク・フランセーズのプログラミングディレクター・ジャン＝フランソワ・ロジェ氏の協力を得て、女優ステファニア・サンドレッリのインタビューを得ることができた。国立映像研究所 CNC、パリ第 8 大学映画学科、BIFI（国立映画図書館）等でも行った。

４．研究成果

研究成果として、20 世紀の映画史において未開の研究領域であるイタリア映画ジャンル「イタリア式コメディ」の全容を歴史的・芸術作品として存在と重要性を、データベースを作成することにより、資料として確立したことで確認することができた。

また、イタリア映画監督の多くの巨匠たちが持つコメディ映画の経歴を明らかにし、日本では無名であるが世界では名高いコメディ映画監督の発見をすることができた。（フェデリコ・フェリーニ、ピエル・パオロ・パゾリーニ）また「イタリア式コメディ」を決定づけた監督としてマリオ・モニチェッリ、ディーノ・リージ、ルイジ・コメンチーニ監督作品の重要性とその経歴を総括した。

さらに脚本家たちの存在があり、それはチェザーレ・ザヴァッティーニだけではない、セルジオ・アミディ、アージェとフリオ・スカルペッリ、スーゾ・チェッキ・ダミーコ、ルッジェーロ・マッカリ、エットーレ・スコラ、トゥリオ・ピネッリ、ルドルフォ・ソネーゴ、エンニオ・フライアーノ、エットーレ・マルガドンナ、レオ・ベンヴェヌーティ、ピエロ・デ・ベルナルディ、ベルナルディーノ・ザッポーニなど無数の星群として存在していた脚本家たちの重要性が、映画作家である監督と共に定義されるべきであるという発見を促してくれた。

「イタリア式コメディ」の歴史的意義は、そこに神話的伝説を打ち立てた俳優陣（アルベルト・ソルディ、ヴィットーリオ・ガスマン、ウーゴ・トニャッツィ、マルチェロ・マストロヤンニ、ニーノ・マンフレッディ）の五人の存在が突出していたこと、その“Diva＝女神”として、ソフィア・ローレンではな

いモニカ・ヴィッティの輝かしく長い経歴があったことを確認し、その重要性と影響力を確信することができた。

インタビューの資料の集積に関しては、フランス・イタリアの映画批評家以外にも、日本にて、朝日新聞社とイタリア文化会館の協力を得て「イタリア映画祭 2014 年」招聘ゲストへも行うことができた。今日イタリア映画界で活躍するコメディ映画を多く手掛けるリッカルド・ミラーニ監督、ジュリオ・マンフレドニア監督、女優パウラ・コルトレージ、男優アレッサンドロ・スペルドゥーティに、各自に喜劇映画の記憶や見解を語ってもらった。これらは動画映像記録として残し、さらに文字起こししデータベース及び今後インターネット配信にも加える予定である。また、2018 年 3 月フランス・シネマテーク・フランセーズにおいて開催された「全ての映画の記憶」映画祭に招聘され、イタリア式コメディ作品に多く出演した経歴を持つ女優ステファニア・サンドレッリにもインタビューをすることができた。

上記インタビューに協力してくれた映画人たちは 21 世紀、イタリア映画界の第一線で活躍するも、本研究の「イタリア式コメディ」の系譜を踏襲し、その伝統を継承していることも確認することができた次第である。本研究で構築された文献やインタビュー、シンポジウムの動画情報の公開の集大成として、国境を超えた有識者や研究者、イタリア式コメディへの多大な関心を持つ人々との交流、意見交換、討議を行う空間を構築することは先送りとなったが、イタリア式コメディの功績と継承を探る研究活動として新たな映画史を提供するさきがけとして行うことができた。

今後、最新のインターネットシステムを活用し、作成したデータベースを配信、公開し、イタリア式コメディの知識と存在を広く社会に発表し、新たな映画の討議の場を築くべく民間の映画祭と協力体制をとり、映画の上映会および討議を行うよう現在も研究計画を進めている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　０件）

〔学会発表〕（計　０件）

〔図書〕（計　０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

佐藤　歩（SATO　Ayumi）
立教大学・心理芸術人文学研究所・特定課題研究員
研究者番号：１０６４８９１８

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者

ジャン・ナルボニ（Jean NARBONI）
ジャン＝フランソワ・ロジェ（Jean-François RAUGER）
セルジオ・トフェッティ（Sergio TOFETTI）